オホーツク海宗谷暖流情報

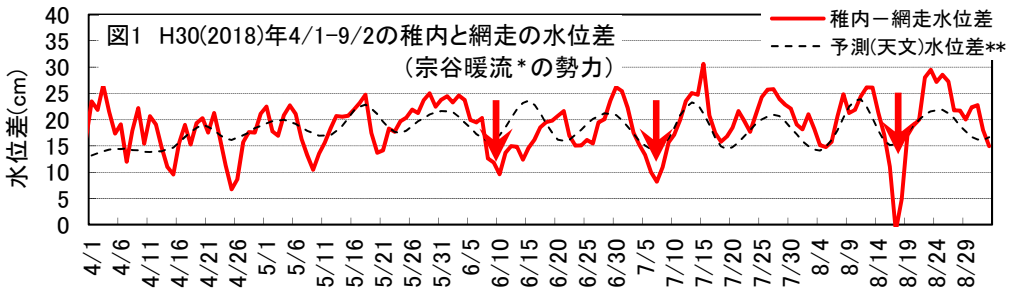
（H30(2018)年9月上旬）

H30(2018)年9月3日
中央水産試験場資源管理部
(担当：海洋環境G　嶋田・品田・佐藤)

●9月上旬現在、宗谷暖流の勢力は例年並みです（図1）。

●オホーツク海沖合の海面水温は、宗谷暖流外側の湧昇域を除いて、Atの好む水温範囲（5-15℃）を超えて上昇していることから（図2）、Atは消滅に向かっているものと推測されます。今夏は三度にわたって宗谷暖流の弱勢が観測され(図1，赤矢印↓)、麻痺性貝毒の発生が危惧されましたが、結果として毒性値の上昇はわずかでした。今後、毒性値が上昇する可能性は低いものと考えられます。

●宗谷暖流情報は今回で終了します。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

**水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。

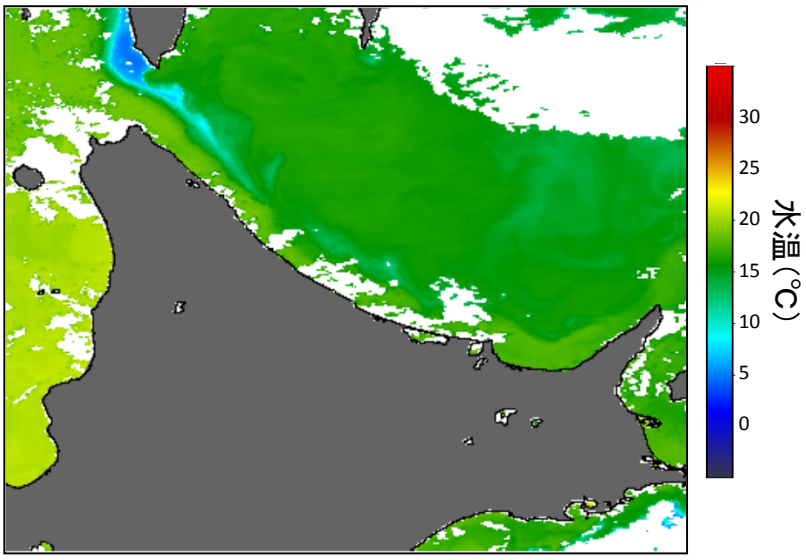


図2　H30(2018)年9/1の海面水温

（ http://www.eorc.jaxa.jp/cgi-bin/adeos/modis_index.cgi　より）

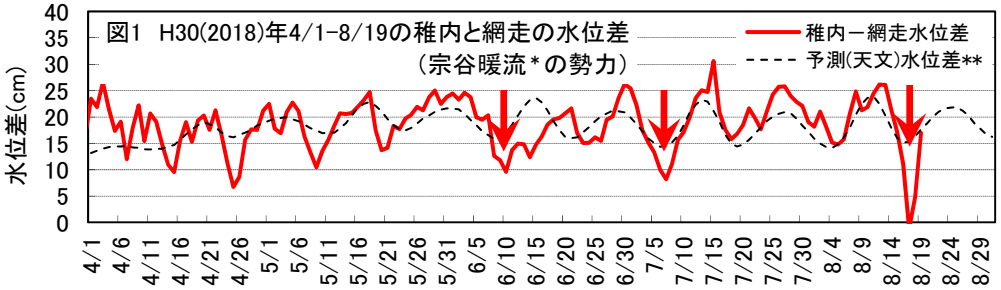
オホーツク海宗谷暖流情報

（H30(2018)年8月中旬）

H30(2018)年8月20日
中央水産試験場資源管理部
(担当：海洋環境G　嶋田・品田・佐藤)

●8/17-18に今夏三度目となる宗谷暖流の弱勢が観測されました(図1，赤矢印↓)。麻痺性貝毒プランクトンAtの出現ピークは過ぎたと思われますが、7月下旬の出現状況（図2）を考慮すると、今しばらく麻痺性毒性値の上昇に警戒が必要です。

●宗谷暖流の勢力については，適宜情報として発信予定です。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。
**水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。

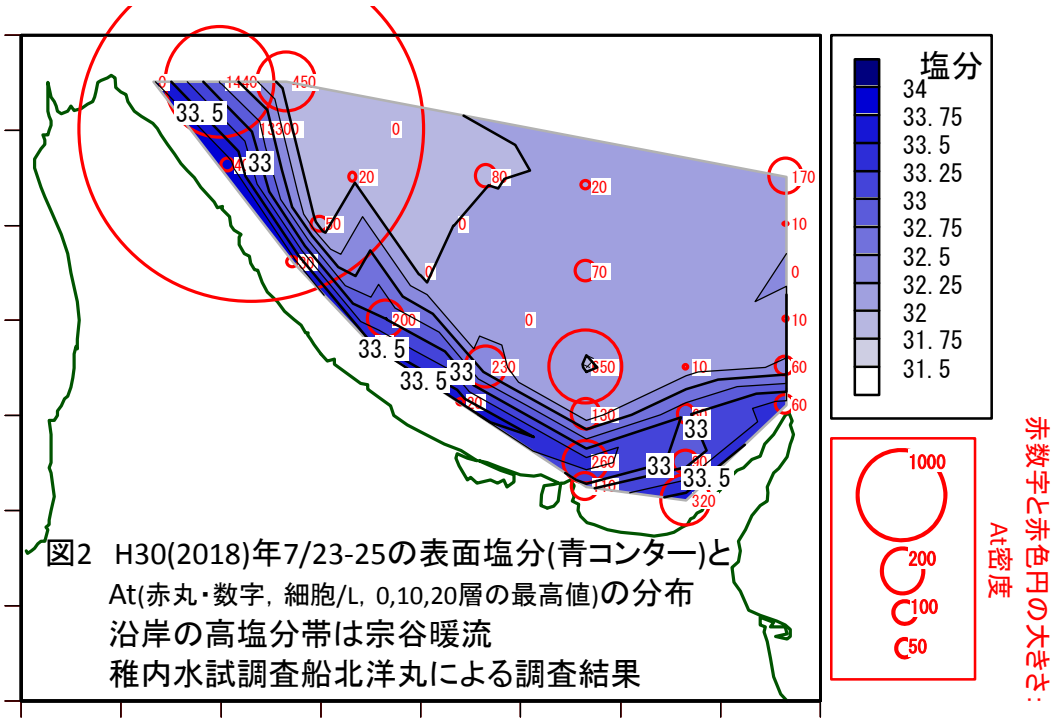


図2　H30(2018)年7/23-25の表面塩分(青コンター)と
At(赤丸・数字，細胞/L，0,10,20層の最高値)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流
稚内水試調査船北洋丸による調査結果